

二〇二一年一月二三日

1 はじめに

皆様、新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、恙なく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げますと同時に、新型コロナウイルスの影響のもと、日常生活に制約をしいられておられるものと承知しております。例年ならば、多くの在留邦人の方々にお越し頂くところですが、本年は、コロナ禍により、実施することはかなわず、感染防止に配慮させていただきつつ、現旧四名の日本人会会長の方々にお越しいただき、お話をうかがう機会といたしました。

二 二〇二〇年を振り返って

（一） さて、昨年二〇二〇年ですが、ご承知のとおり、日本・ホンジュラス外交関係樹立八五周年という両国にとって記念すべき年に当たり、当初、様々な記念事業、文化事業を計画しておりました。

幸いなことに、一月中旬の我が国初の鈴木外務副大臣のご来訪を皮切りに、二月下旬のナショナル・アイデンティティ博物館におけるロサレス外相との共催による八五周年記念文化事業の開催、三月初旬にかけての阿波踊りグループ「寶船」による文化交流、エルナンデス大統領ご夫妻の臨席をいただいてのフアナ・ライエス公園整備の完工式、コパン遺跡における新整備プロジェクトの立ち上げなどを、三月初旬までに実施することができました。

(二) しかしながら、三月中旬以降、世界的なコロナの流行により、ホンジュラスにおいても、感染発生が確認され、その後の感染拡大により、外出制限が長期にわたり継続することとなり、経済的にも深刻な影響が出るといった状況に至ったところです。

このような中、大使館といたしましては、JICAとも連携しつつ、早い段階で、邦人保護の観点から、在留邦人の方々一人一人に連絡をとらせていただきながら、援助関係者や短期滞在者を含め、希望される方に対するご帰国実現の支援に努めました。

続いて、コロナ対策は、グローバル化が進展している今日、国際社会全体が一致して取り組むべき課題であるとの認識の下、我が国は、ホンジュラスの保健・医療体制の強化、コロナの影響の大きい乾燥回廊の食糧強靱化、閉鎖を余儀なくされている学校再開の支援などを目的に、新たに五プロジェクト、合計約千万米ドルの無償資金援助を六月以降、順次、決定し、早急な実施に努めたところであり、これらによって、ホンジュラスにおける「人間の安全保障」が向上するところが期待されるところです。

(三) 加えて、一月初旬には、二三年前のハリケーン・ミッチ以来の大規模の熱帯暴風雨「イータ」、**「イオタ」**が襲来し、北部地域を中心に人口の半数に近い四六〇万人に及ぶホンジュラス国民が被災するなど甚大な被害に見舞われました。当国政府の求めに応じ、私も、被害状況の確認に参りましたが、多数の土砂くずれや河川の氾濫、住宅の水没などを目の当たりにしました。

このような中、我が国は、災害発生直後の一月一四日、緊急人道支援物資の供与を実施したほか、当地国連システムが発信したフラッシュ・アピールを踏まえ、一月一八日には、総額四百万ドルに及ぶ各国国際機関を通じた人道支援第二弾を決定しました。

今後、災害からの復旧・復興が重要な課題となりますが、我が国は、長年に渡る友好関係を有するホンジュラス国民の福祉向上のため、引き続き必要に応じた協力を行っていく所存です。

(四) 以上のとおり、パンデミック以降、八五周年記念事業は、実施変更をせざるを得ないものも多くありましたが、一方、時宜に即した新たな支援の決定・実施等を通じ、日本の存在感を強くアピールできたのではないかと思います。また、文化事業に関していえば、インターネットを活用し、例えば、コパン遺跡研究の第一人者である金沢大学の中村誠一先生によるウェビナー講演会、一〇数年前に収録された日本・ホンジュラス合作劇「米百俵」の公演の当館フェイスブックでの動画上映、クバイン名誉総領事によるビデオ・メッセージの投稿など、新たな形での発信強化に取り組むことができたのではないかと思います。

加えて、東京オリンピックのホンジュラスのホストタンである群馬県片品村との間で、様々な交流が進んだことは非常に歓迎するべきことでした。

三 二〇二一年に臨んで

(一) さて、二〇二二年は、ホンジュラスを含め、中米諸国の独立二〇〇周年の年です。我が国では、夏に、東京オリンピック・パラリンピックが開催予定ですし、ホンジュラスでは、秋に、大統領選・総選挙も行われます。

是非、人類がコロナに打ち勝ち、飛躍する、希望の年にしたいものです。

(二) 勿論、コロナについては、当面、厳しい状況が継続し、経済的にも大きな影響があると考え

られます。皆様方におかれては、是非、健康管理には十分ご配慮していただくことを望みます。一方、そのような中にあっても、大使館としては、復旧・復興への支援や文化事業を含め、様々な活動を通じて、日本とホンジュラスの友好関係の一層の進展、相互理解の深化に積極的に取り組んで参ります。

加えて、今後、コロナや熱帯暴風雨被害からの経済復興が検討される中で、我が国民間部門からの投資拡大への期待が高まることも予想されます。大使館としては、ホンジュラスにおいて活動を希望する本邦企業等に対して必要な情報提供等の支援を行っていく所存です。

四 終わり

ウイルスという見えない敵との戦いは、決して簡単なものではありませんが、生活様式が変わり、人と人との交流のあり方が変化しても、「絆」は重要です。今後も新しい生活様式に沿いながら、日本とホンジュラス間の絆、在留邦人の皆様方との絆を深めるべく努力して参ります。

新旧日本人会会長の皆様には、本日、お越しいただき、改めて御礼申し上げます。この後、限られた時間ではございますが、いろいろお話等をお伺いできれば幸いに存じます。

なお、本日の私の挨拶、これからいただきます木部会長のご挨拶、大使館領事担当からの連絡事項等については、大使館ホームページ、領事メールを通じて、邦人関係者に発信させていただきます。予定です。

本年も皆様の益々の「活躍」と「健勝」を祈念し、私の挨拶といたします。

(了)